

2017年(平成29年)

1月20日

金曜日

だいた
大寒



医師めざし東京の大学へ

僕は1953(昭和28)年に奈良市で生まれた。生家は新築師寺という国宝の寺の西隣で、百人一首にも詠まれた春日山のふもとである。現在は写真美術館が南隣に立っているが、昔そこは遊び場だった。祖父は軍人、祖母は栄養学者、父は医

とちぎの風

人生支える在宅医療

太田秀樹 ②

者。同居する伯母は生化学者だった。お手伝いがいる大家族だったが、質実剛健を家訓とする質素な暮らしだ。厳格なしつけと窮屈な毎日に反発し、幼稚園は中退、小学校でもなかなかの問題児で、両親は子育てに相当手を焼いたらしい。勉強を一生



おおた・ひでき 1953年、奈良市生まれ。自治医大大学院修了。92年「およま城北クリニック」開業。現在は医療法人アスムス理事長として在宅医療を推進。

懸命やった記憶はないが、なんとか県立の進学校に進んだ。なぜ医者になったのか、とよく聞かれるが、親戚も含めて周囲の大人から医師になるのが当然という扱いを受けたからに違いない。「こんな成績じゃ、医者になれへんぞ」と叱られるたびに、父に対して妙なライバル意識が芽生え「医者になれんかったら自己否定される」。子供心にもそう思えたものだった。

父に医学部受験を伝えた時、「医者はいんどいぞ」と、医師になることはさほど望まれていなかったかに思えた。結局大学受験に失敗。京都で浪人生活を送ったが、翌年も志望校は不合格。しかし、私立の医学部に合格すると、「この医大でもええから、早う医者になったほうが」と父は医師への道を応援してくれた。こうして東京での大学生生活が始まった。73年のことである。各県一医大構想が閣議決定され、栃木県では自治医科大学や獨協医科大学が新設されていた。医者が増えると言われた時代である。(次回27日)